

ポイント

修飾語 (修飾・被修飾の関係)

- ① 「修飾語」「修飾する」「係る」といった言葉を「国語の用語」としてとらえさせるとともに、その用語の「意味・定義」を知識としてしっかりと定着させましょう。
- ② 修飾語のない文とある文を比較させ、修飾語の有用性を児童自身が実感できるように授業を構成しましょう。
- ③ 学んだ知識は、その後繰り返し活用する機会をもつようにしましょう。
(「修飾・被修飾の関係」は中学年で学習して以降、小学校では学習内容として取り上げられませんが、中学校では「文節」を学習する単元で取り上げられます。)

- ④ 第四学年
修飾語について理解している。
〔第三・四学年 伝国(1)イ(キ)〕
- ③ 次の文の——線部の修飾語は、どの言葉に係っていますか。その言葉を書きなさい。
わたしは、昼休みに、図書室で 本を 読みました。
- ② 「図書室で」「本を」の他に「空いている時間」等の問題文にない言葉を書いている誤答が見られました。
- ① 漢字の組み合わせを手がかりにして熟語の意味を理解している。
〔第三・四学年 伝国(1)ウ(イ)〕
- ⑥ 次の熟語のうち、上の漢字が、下の漢字を修飾する関係にある組み合わせはどれですか。
1~4の中から一つ選び、その番号を書きなさい。
1 勝敗
2 前進
3 登山
4 救助

どのように
犬が わたしに **ゆっくりと** 近づく。
どのように
ゆっくりと 犬が わたしに 近づく。

係り受けの関係をこのように矢印等で示し、修飾・被修飾の関係を理解させましょう。

チャレンジ確認シート
H30A⑤ H27A② H20A③

学びの丘ウェブページ「補充学習・家庭学習」ページ内の「夏休み補充学習の進め方」動画にも指導法を掲載しています！

国語マスター問題集
中学年
⑤・⑭・⑮

正答率 33.5%
無解答率 6.4%

正答率 31.8%
無解答率 9.3%

読むこと (説明的な文章)

① 第五学年
文章の中には、十秒という言葉に「」が付いているものがあります。この「」を付けている理由として、どのようなことが考えられますか。その説明として、もつともふさわしいものを、次の1~4の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

1 緊急地震速報が出てから実際に地震のゆれがくるまではあまり時間がなく、十秒を強調することによってその短さを読者に対して危機感をもって伝えるため。
2 緊急地震速報が出てから実際に地震のゆれがくるのは、場所によって十秒以外の場合もあるが、速報が出てからゆれがくるまでの、命を守るための時間として表現するため。
3 緊急地震速報が出てから実際に地震のゆれがくるのが十秒後であり、その十秒で、命を守るための行動を取ってほしいと読者に対して強調するため。
4 緊急地震速報が出てから実際に地震のゆれがくるまでの時間である十秒が、大変きりのいい数字だったので、読者に対して目立たせるため。

文章の内容を的確に押さえて筆者の考えをとらえることができる。〔第五・六学年 読むこと ウ〕

文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえることができる。
〔第五・六学年 読むこと ウ〕

正答率 41.0%
無解答率 8.3%

〔案件〕
○ 文章中の言葉を使うこと。
○ 四十五字以上、八十字以内で書くこと。
(書き出しの言葉は字数にふくまない。)
句読点は一字と数える。)

わたしたちは、地震から命を守るために、
ア

日本では「緊急地震速報」の研究が進められている。この速報は、地震のゆれとして伝わる波には二種類あり、その二つの波の伝わる速度のちがいを利用して、地震の発生をしゅん時に知らせるものだ。

① 第五学年
文章の内容を的確に押さえて筆者の考えをとらえることができる。〔第五・六学年 読むこと ウ〕

文章の内容を的確に押さえて筆者の考えをとらえることができる。〔第五・六学年 読むこと ウ〕

正答率 32.5%
無解答率 0.7%

〔案件〕
○ 文章中の言葉を使うこと。
○ 四十五字以上、八十字以内で書くこと。
(書き出しの言葉は字数にふくまない。)
句読点は一字と数える。)

わたしたちは、地震から命を守るために、
ア

日本では「緊急地震速報」の研究が進められている。この速報は、地震のゆれとして伝わる波には二種類あり、その二つの波の伝わる速度のちがいを利用して、地震の発生をしゅん時に知らせるものだ。

説明的な文章は、筆者の意見や主張を読者に説明するための文章です。読者が納得できるように説明するため、整理された構成の中で、事例や図表を用いて記述されています。

内容把握だけでなく、その内容や叙述と図表を関連付けながら、構成をとらえる学習(問題提起・事例・主張など)や要旨をまとめる学習、構成や表現を用いた筆者の意図を考察する学習を設定しましょう。この際、子どもたちを書き手(発信者)の立場に立たせて考えさせることが大切です。

チャレンジ確認シート
H21A⑥ B③[2](1)(2)
H22A② B④
H24B③[1][2][4] H25A⑤
H26A④ B②[1][2]
H27A⑤ B②[2][3]
H28A⑤ B③[3] H30B③[2]
H31②1(2)

国語マスター問題集
5年⑩・⑱・⑲・⑳

書くこと（報告文を書く）

第四学年

2 北川さんの学級では、総合的な学習の時間に、和歌山県の自然について調べたことを、それぞれがメモに書き出し、ほうこく書にまとめることになりました。次の北川さんの「メモ」と「ほうこく書の下書き」を読んで、あとの(1)～(3)に答えなさい。

(2) 「アドバイス」の①を受けて、「ほうこく書の下書き」に文をつけ加えて書きなさい。ただし、次の「やくそく」を守ることに。

- 文の終わりを「です。」「ます。」「のようにつくこと。」
- 三十五字以上、四十五字以内で書くこと。（句読点をふくむ。）

目的や必要に応じて、事例をあげて文章を書くことができる。

〔第三・四学年 書くことウ〕

誤答の傾向

・「高い山で見つかる植物は、ブナやミズナラなどです。」
↓
字数不足であり、「やくそく」を意識できていない。

・「高い山には、ブナ、ミズナラなどの約二千五百種類の植物があるといわれています。」
↓
「下書きに文を付け加える」という設問を読み取れず、下書きに既に示されている内容も書いている。

・「どこで見られるのかについては、高い山や海岸近くの森で見られるということが分かっています。」
↓
「アドバイス」の「どこで、どんな植物が見られるかが書かれていないよ。」の「どんな植物」の部分を読み取れず、植物名を書けていない。

(3) 「アドバイス」の②を受けて、「ほうこく書の下書き」の

の部分を書き直しなさい。

文章をよりよい表現に書き直すことができる。

〔第三・四学年 書くことオ〕

誤答の傾向

- ・「地名をもとに名づけられた植物」を省けていない。
- ・「同じ言葉」以外を省いている。

↓
「アドバイス」を読み取れていない。

正答率 20.9%
無解答率 22.8%

正答率 34.3%
無解答率 21.6%

チャレンジ確認シート

- H19A②③ H20A③ H21A⑧ H22A④
H23A④ B①[1]②[1・2] H24B③[4]
H25A③ B②[1] H26A③ H27A④
H31①[4](2)



国語マスター問題集
中学年
12・16・20・21

接続語（書く活動を通して）

第五学年

4 つなぎ言葉を用いて、文と文をつなぐことができる。〔第三・四学年 伝国(1)イ(ク)〕

(4) 次の文を、文と文をつなぐ言葉「そのため」を使って二文に分けました。書き直した一文目の終わりの五文字と、二文目の「そのため」に続く五文字を書きなさい。（読点をふくむ。）

昨日外に出ると、空一面真っ黒な雲でおおわれていたので、わたしは、かさを持って出かけました。

。そのため、

誤答の傾向

「真っ黒な雲。（そのため、）かさを持つ」「昨日外に出。（そのため、）けました。」といった誤答が見られました。

正答率 17.1%
無解答率 18.2%

- ① どの部分が「事実」でどの部分が「意見」なのか、「理由」はどこかなど、叙述の区別ができるよう、読むことの指導と関連させて指導しましょう。
- ② 理由を表す言葉、順序を表す言葉などを、意図的に使わせる指導をしましょう。
- ③ 文字数や使う言葉を制限するといった条件を付けて書く指導をしましょう。
- ④ 図表やグラフの活用、文章の引用を取り入れた指導をしましょう。（複数の資料を扱う）
- ⑤ 児童同士で、書いた文章の推敲や助言をしあう活動を取り入れましょう。

国語科の授業改善について

基本は「学習指導要領」

① 指導事項（＝国語の力）を明確にし、単元を設定しましょう。

- ・ 指導事項の重点化を行い、3領域1事項の指導を意図的・計画的に行う。
- ・ 1教材・1時間で指導すべき指導事項を精選する。
- ・ 児童の実態に応じて、習得が不十分な指導事項も取り上げる。
- ・ 6年間を見通し、系統性を踏まえた指導を行う。

② 到達すべき児童の姿（目標）を具体的に設定しましょう。

③ 指導事項に即した言語活動を設定しましょう。

- ・ 言語活動が目的化しないよう注意する。（言語活動を通して、指導事項を指導する。）
- ・ 習得した知識・技能を活用し、思考・判断・表現を行う問題解決的な言語活動を設定する。

Bと判断する成果物の条件、内容は…。
Cと判断される児童への手立ては…。

この教材は「読むことエとオ」「伝国(1)イ(カ)」を指導しよう。中でも、「読むことエ」を重点化した単元構想をしよう！



「この言葉」と「この言葉」を比較して、印象がどう変わるかを考察させよう！